

鳥取県社協だより

志あわせへ

Shi-a-wa-se-e

令和8年
1月1日発行
冬号
第253号

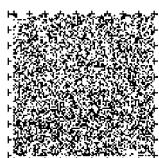


切り絵：不動院岩屋堂（若桜町）／紙原四郎（とつとりいきシニアバンク登録）

主な項目



音声コード「Uni-Voice」
を印字しています。
音声コードをアプリで読み込んでいただくと音声
が流れます。



音声コード Uni-Voice

- P.2 ◆ 今日の眼 鳥取県社会福祉協議会 会長 中西 真治
ボランティア団体、NPOとのつながりを被災者支援にも活かす
- P.3 ◆ 市町村社協の新たな挑戦 江府町社協
- P.4~5 ◆ 社会福祉法人による「地域における公益的な取組」紹介
- P.6 ◆ ねんりんピック岐阜2025 鳥取県選手団はばたく
- P.7 ◆ 笑みの花咲く ねんりんフェスタ2025開催
- P.8 ◆ 若い世代をはじめ県民の皆さんへ保育の魅力を発信します！
- P.9 ◆ 「福祉の魅力発信フェスタ&福祉のお仕事ガイダンスとつとり2025秋」開催
- P.10 ◆ 住民の『思い』を起点に、地域をともにつくる～市町村社協先進地視察研修～
鳥取県DWAT・大山小学校4年生PTA「家族de防災キャンプ」
- P.11 ◆ 日常生活自立支援事業の運営監視
令和7年度 社会福祉法人 労務管理研修会の御案内
- P.12 ◆ 赤い羽根共同募金
- P.13 ◆ 「鳥取県ひとり親家庭等高等教育進学支援資金事業」寄付金募集のご案内
ボラセンの窓から地域共生社会を展望する
- P.14 ◆ 賛助会員を募集しています
御寄付御礼
- P.15 ◆ ボランティア活動保険
- P.16 ◆ 鳥取県福祉研究学会のご案内

今日の 眼

皆様、新年あけましておめでとうございます。この度、勇退された藤井会長を引継ぎ、会長の職を担わせていただすこととなりました。至らぬところが多々あると存じますが、任期中、精一杯がんばりたいと思いますので、皆様のご指導、ご協力を何卒よろしくお願ひ申し上げます。

令和7年は第二次トランプ政権の発足、日本初の女性首相誕生など国内外で大きな動きのあった年でありました。また令和7年は西暦では2025年でございました。15年ほど前に警鐘を鳴らされた2025問題の年でもありました。団塊の世代が後期高齢者となり、増加の一途をたどる社会保障費を、減少を続ける現役世代で支える構図になるとともに介護・医療人材の確保が困難になりサービス維持が難しくなるなどと当時はかなり悲観的な論調で語られていたものであります。実際は医療・介護に関わる方々のご努力などによりなんとか大きな支障なく過ごすことができたのではないかと思いま

す。一方で米価格をはじめとする物価高、賃金の上昇、少子高齢化の進展による人材不足は特に公定価格でまかなわれている医療介護サービスに大きな影響を及ぼしています。今年は、こういった課題が解消に向かい穏やかな年となることを願いますとともに、県社協としても地域福祉の推進のため皆様といつしょになつて様々な課題に向かってまいりたいと思います。

新しい年が皆様にとって良い一年になるよう心からお祈りいたします。

鳥取県社会福祉協議会 会長
中西 真治



ボランティア団体、NPOとのつながりを被災者支援にも活かす

昨年9月5日、鳥取県社会福祉協議会は鳥取県と「災害中間支援組織の設置及び運営に関する協定」を締結しました。

災害が起ると、全国各地の活動団体が、一刻も早く被災者を助けたい一心で被災地に赴かれます。

重機の操作ができるなどの土木技術のある団体、被災した子どもを見守ることができる子育て支援サークル、炊き出しのお手伝いができる地域食堂や企業の方など活動内容は多岐にわたります。

一方で被災地として受け入れる体制が整っていないと、活動団体の思いや技術が、その支援を必要とする被災者にうまくつながらなかつたり、ある場所には支援団体が多く集まっているにも関わらず、全く支援の届いていない地域があつたりと、効果的な支援とならない場合があります。

そこで鳥取県ではこの度の協定により、鳥取県社会福祉協議会が中心となり、県内で災害が発生した際の活動団体の窓口、被災者の依頼事項との活動調整・つなぎ、団体間の情報共有などの役割を担うこととなりました。

もとより鳥取県社会福祉協議会だけでこの役割を果たすことはできません。そのため、日頃から県内の様々な活動団体の皆さんとつながり、互いに信頼できる関係を作っていくします。

その輪を幾重にも広げていくことで体制を整え、災害発生時の支援現場での混乱をいくらかでも減らし、活動団体に力を十分に發揮していただき、被災者の生活復興が少しでも早く進むよう努力していきます。

また、県内の活動団体の皆さんに災害時の支援活動についてご理解を

いただき、それぞれの活躍の場を更に広げていただけ

るよう共

に歩んで

いきたい

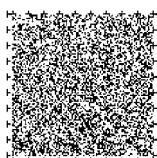
と思いま

す。



協定締結式

◆問い合わせ先 災害福祉支援センター ☎0857-30-6367 ◆



市町村社協の 新たな挑戦

【江府町社協】



本会では、「地域福祉の推進とみんなでつくる福祉社会の実現」という基本理念のもと、「県民参画による福祉のまちづくり（住民参加と市町村社協支援）」を重点テーマとして取組みを進めています。そこで、市町村社協で新たに取組む事業等をシリーズでご紹介しています。

今回は、江府町社協の取組みについて、山下事務局長にお話を伺いました。

住民が集まる場を住民にとつても社協にとつても有意義な場に



職員が自己紹介する様子

支え愛マップづくりは、災害時に支援が必要となる方を住民同士で話し合いながら把握し、地図にそれらの情報を落とし込み、共有していくことで、災害時だけでなく平時から地域で支え合う機運を高めていく一つのツールとして県内で取組みが広がっています。

江府町社協では、地域の皆さんがあれに集まり、語り合える場として

「支え愛マップづくり」を進めています。堅苦しい会ではなく、ざつくばらんに話し合える雰囲気を大切にし、普段の生活に関する話題が出ることを目指しています。

毎回、若手社協職員3名が会の冒頭で自己紹介を行い、地域の高齢者の方々から質問が寄せられることで自然なやりとりが生まれます。会場は和やかな雰囲気に包まれ、住民の気持ちもほぐれていきます。

マップづくりの中では雑談めいた会話が飛び交い、その中に地域の生活動題や相談内容が含まれることもあります。社協職員はそれらを丁寧に拾い上げ、必要に応じて関係機関へつなげています。座談会とマップ作成を組み合わせることで、相乗効果が生まれています。

座談会で説明される社協の「支え合い」活動は、マップ作成を通じて江府町社協ではこうした取り組みのしづらさを感じており、「広報を通じて、このような場なら参加してみたい」と山下事務局長は話します。

江府町社協ではこうした取り組みに手ごたえを感じており、「広報を通じて、このような場なら参加してみたい」と山下事務局長は話します。

地域のさまざまな方が参加し、それぞれの思いを共有しながら、住民自身が描く「ありたい地域づくり」へつなげていくことを目指しています。

本会としても県内でも支え愛マップづくりなどを通じて県民参画による福祉のまちづくりが広がっていくよう支援していくことがあります。



住民同士で話し合う様子

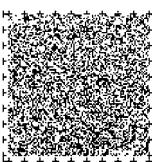
さらに、職員が自己開示をする」とで「社協職員なら話してみてよいかも」と住民に思ってもらえるようになり、信頼関係の構築にもつながっています。これまで声を上げにくかった方々も安心して相談できる場となり、頼れる社協としての存在感が高まっています。

これまでの取り組みの中では生活のしづらさを感じており、「広報を通じて、このような場なら参加してみたい」と山下事務局長は話します。

江府町社協ではこうした取り組みに手ごたえを感じており、「広報を通じて、このような場なら参加してみたい」と山下事務局長は話します。

地域のさまざまな方が参加し、それぞれの思いを共有しながら、住民自身が描く「ありたい地域づくり」へつなげていくことを目指しています。

本会としても県内でも支え愛マップづくりなどを通じて県民参画による福祉のまちづくりが広がっていくよう支援していくことがあります。



社会福祉法人による 「地域における 公益的な取組」紹介

10年より始まり、長きにわたり試行錯誤しながら継続されています。

毎週火曜日に販売されるたい焼きは、多いときには200個～250個を売り上げ、午前中には売り切れてしまうほどの人気ぶりです。リピーターの方が多いのはもちろん、地域の会議や保育所のおやつとしてまとめて注文があるなど、ハッピー焼きが地域に深く浸透している様子がうかがえます。

今回は、地域住民の「居場所づくり」を実践する、ふなおか福祉会船岡作業所の小林所長にお話をうかがいました。長年にわたり地域に愛される、その取組をご紹介します。

●施設利用者の方の工賃の安定

者の方の収入を安定させる重要な基盤となっています。

●地域の方との自然な交流機会

販売やイベント出店を通じて、利用者が日常的に地域の方々と関わる機会を創出しています。これは、地域社会の中で利用者が活躍する場にもなっています。

●地域の名物

27年間という長い取組を通じて地域にハッピーたい焼きが浸透し、地域の会議や子どものおやつなど生活の一部となり、「地域の名物」として親しまれています。

以前、地域のお祭りに出店した際のカレーが「おいしい」と評判だったことがきっかけとなり、「地域のみんなで温かいカレーを囲む居場所を作ろう」と平成29年にスタートしました。当初は生活に困窮される方を対象にと考えていましたが、「誰もが立ち寄れる場所に」という思いから、現在では八頭町や近隣市町村にお住まいの方ならどなたでも無料でご利用いただけます。



ハッピーカレーは原則毎月第3土曜日に開催されます。職員の方が施設内で手作りする温かいカレーを無料で提供しています。

ハッピーカレー・ オープンカフェ ～カレーがつなぐハッピーの輪～

【取組みによる成果】

高い人気による安定した売上

●施設利用者の方の工賃の安定

船岡作業所では、受託作業とは別に作業所前での露店や移動販売を通じて「ハッピーたい焼き」の製造販売に力を入れています。この取り組みは、「利用者さんの活躍の場を広げたい」、「地域に根差した施設でありたい」という二つの思いから平成

【取組みの内容】

ハッピーたい焼き
～地域に根差した就労支援～

【取組みの内容】

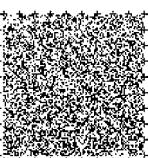
船岡作業所では、受託作業とは別に作業所前での露店や移動販売を通じて「ハッピーたい焼き」の製造販

売に力を入れています。この取り組みは、「利用者さんの活躍の場を広げたい」、「地域に根差した施設でありたい」という二つの思いから平成

船岡作業所は、障がいのある方の就労支援として、地元企業を中心と

した作業受託や、自主製品（たい焼き等）の製造販売など様々な活動を行っています。そ

んな中、「地域に何か貢献できるのではないか」という思いから生まれたのが、無料のカレー提供活動『ハッピーカレー』です。



音声コード Uni-Voice

普段お一人で過ごされている方も参加されており、「毎月の予定」ができることで生き生きとした暮らしにつながっている様に感じます。作業所の利用者の方々も参加し、ここでは「仕事の話」ではなく、普段の悩みなどを気軽に話し合える場にもなっています。

また、「行きたいけど交通手段がない」という方のために、送迎にも対応しています。

現在、この取り組みの輪は八頭町社協や八頭町福祉課、関係者の皆さんへのチラシ配布の協力依頼に加え、「一度参加した方の口コミ」によって自然に広がっています。

小林所長は、「今後も地域に根差した温かい居場所として活動を続けていきたい。将来的には、子ども食堂や町で気軽に立ち寄れる昼食の場づくりにも挑戦したい」と熱い展望を語ってくださいました。

また、船岡作業所では地域に開かれた居場所づくりの取り組みの一環として、年に2回、施設を『1日限定カフェ』として開放しています。この『オープンカフェ』はお昼間の2～3時間を利用して開催され、地域の方々との交流を深める大切な機会となっています。

（二）では、『ハッピーカレー』や『ハッピーカー焼き』も提供されます。

普段お一人で過ごしている方も参加されており、「毎月の予定」ができることで、作業所がさらに身近な存在となり、誰もが気軽に立ち寄れるコミュニティの場としての役割を果たしています。

【取組みによる成果】

●【居場所】と【予定】の創出

普段、休日などに予定がなくお一人で過ごしている方にとって、毎月参加できる大切な予定となっています。外出するきっかけが生まれ、「〇〇」の向上に役立てています。

地域住民の皆さんのがスタッフとの交流を楽しみにしており、ちょっとした日々の出来事や困りごとを気軽に話せる場となっています。この活動が、地域における安心できる居場所として機能しています。

●地域交流の促進と安心感

作業所の利用者の方も参加することで、仕事から離れた自然な形の地域交流が生まれており、お互いの理解を深める機会にもなっています。

【活動者「メソント】

- ハッピーカレーの取り組みには作業所の利用者の方も参加され、「誰が作るの？」と毎月の楽しみになっています。



なっています。
和気あいあいとした雰囲気で食事や食後のコーヒーを楽しんでいます。

「おひしゃ」と書いておかわりもしてくれて、作ったかいがあるなあと感じています。

ハッピーカレーの取り組みは平成10年から、ハッピーカレーの取り組みは平成29年からスタートし、長い期間継続して続けることができたことは非常に大きなことだと考えています。

【利用・参加された方の声】

休みの日もみんなに会えて嬉しいスタッフの方が作ってくれるカレーはおいしいハッピーカレーに誘つてもうってお邪魔するようになりました。おしゃべりしながら食べるカレーはおいしくて、すてきな居場所です。

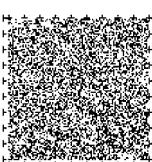
【事例提供法人】

社会福祉法人ふなおか福祉会
就労継続支援B型事業所
船岡作業所

鳥取県八頭郡八頭町船岡殿1-63
電話番号 0858-73-0797
FAX 0858-71-0807
法人HP /
<http://funaoka-sg.jp/>

ハッピーカレーやハッピーたい焼き、オープンカフェなどの開催を通じて今後も地域に根差した施設として皆様と共に歩みつけたいと考えています。

ハッピーカレーやハッピーたい焼き、オープンカフェなどの開催を通じて今後も地域に根差した施設として皆様と共に歩みつけたいと考えています。



◆問い合わせ先 地域福祉部 ☎0857-59-6332◆

ねんりんピック岐阜2025 鳥取県選手団はばたく

埠大会を超える感動と情熱を期待しています。

●美術展
写真部門
銀賞 根鈴 裕之

第37回全国健康福祉祭ぎふ大会

(ねんりんピック岐阜2025)が、
10月18日(土)から21日(火)の4日間
にわたり岐阜県で開催されました。

大会には47都道府県と20政令指定
都市から約1万人が参加され、鳥取
県からも21種目136名の選手監督が参
加してスポーツ・文化の交流大会で

競技や交流を楽しみました。

18日(土)に総合開会式が、岐阜メ

モリアルセンター長良川競技場で開
催されました。開会式にはお笑い芸
人流れ星☆扮する徳川家康と石田三
成を中心に各県の名前を染め抜いた



総合開会式



のぼり旗を掲げ、ほら貝の音を合図
に一斉に前進しても勇壮な雰囲気
でした。

鳥取県選手団は、前進に合わせて
目玉おやじの团扇を振るとともに、
「ねんりんピックひとつとり ありが
とう」の横断幕を掲げ感謝の意を表
しました。

19日(日)からは岐阜県内一円で31
種目のスポーツと文化の交流大会が
行われ、鳥取県の選手の皆さんも日
頃の練習の成果を存分に發揮され、
大いに楽しんだ大会となりました。

また、11月21日には、上位入賞され
た選手6人に御参加いただき、鳥取
県庁において平井知事に成績報告を行
いました。知事からはねぎ
らいの言葉を
いただき、参加
された選手の
喜びの笑顔が
印象的でした。

令和8年度
は、埼玉県で開
催されます。岐



知事報告会

【主な上位入賞の皆さん】

●個人種目

マラソン	2位	徳永 和義
	(70歳以上10km・男)	
	4位 戸田 尊	
	(70歳以上3km・男)	
	8位 古田 一郎	
	(60~69歳5km・男)	
水泳	2位	八波 淳一
	(65~69歳25m)	
	優秀賞	背泳ぎ・男
	(65~69歳50m)	
	4位 中島 晃亮	
団碁	4位	村河 武善
	優秀賞	大津 直樹
	2位	梨原 理恵
健康マーチャン	2位	
バドミントン	2位	
ソフトバレーボール	2位	
ウォーキング	2位	
バウンドテニス	2位	
将棋	2位	
囲碁	2位	
団体戦	4位	
団体戦優秀賞	4位	

●団体種目		
ペタンク		
ソフトバレーボール		
ウォーキング		
バウンドテニス		
将棋		
囲碁		
団体戦		
団体戦優秀賞		



◆問い合わせ先 生涯現役推進室 ☎0857-59-6338 ◆

笑みの花咲く ねんりんフェスタ 2025 開催



一昨年開催された「ねんりんピックとっとり大会」は多世代の参加と心温まるおもてなしで成功を収めました。その結果をレガシーとして継承し、高齢者が地域で役割と生きがいを持ち続けられる社会の実現と、文化と活力を未来へつなぐ、持続可能な地域づくりを推進するため11月9日、鳥取県民体育館メインアリーナで「笑みの花咲くねんりんフェスタ2025」が開催されました。

開会式では平井伸治鳥取県知事の

あいさつ、石破茂衆議院議員の来賓あいさつに続き「とっとりいきいきシニア表彰式」が行われ、若桜町上町老人クラブ、智頭町民コラス、鳥取市の中嶋須美子さんが受賞されました。

ステージでは10団体の公演がありました。まず山田盆踊り保存会（八頭町）は因幡大津絵、三番叟、貝殻節等を披露し、男たちの勇壮な踊りに来場者は大きな拍手を送っていました。因幡麒麟獅子舞の会（鳥取市）は伝統文化の継承と育成に努めています。近くで見る獅子舞は迫力があり、みなさんがびっくりしていました。

展示部門でも10団体が参加しました。このうち人形浄瑠璃新田相生会（智頭町）は人形操作を実演し、みなさんが興味深そうに見入っていました。浄瑠璃人形は歴史を感じさせる重みがありため息がもれていきました。



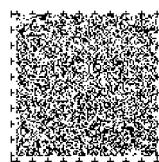
eスポーツコーナーではお馴染みの太鼓の達人が大人気で、老齢のご夫婦で対戦したり小学生の兄弟が楽しんだりと、年齢に関係なく楽しめることを感じさせました。

ニュースポーツのコーナーでは、パットゲームスターに親子でチャレンジし勝ったお母さんが大喜びしていて和やかな雰囲気が印象的でした。



このほかに、ふるさとグルメコーナーには15店が出店し、地元産の柿や野菜、おこわの販売、鳥取牛のサイコロステーキなど来場者はおいしそうに召し上がってきました。

世代を超えて交流し楽しめることがねんりんフェスタの魅力です。多くの親子連れに来場いただき楽しい一日でした。



◆問い合わせ先 生涯現役推進室 ☎0857-59-6338 ◆

若い世代をはじめ県民の皆さんへ保育の魅力を発信します！

～鳥取県保育士・保育所支援センターの取組み～

1 保育の魅力発信事業の実施

行政機関、保育士養成校、保育に携わる団体などが協働し、中高生・養成校在学生などの若者やその保護者、さらに子育て世代の親子をはじめとする県民の皆様に保育に対する理解を深めていただけるよう鳥取県及び米子市との共催により開催しました。

来場者の皆さんは、保育に関わる様々なイベントを通じて「保育の魅力」について体感していただくとともに、シールラリーや抽選会に参加していただくことにより、クリスマスのプレイベントとして楽しいひとときを過ごしていただきました。

- と き 令和7年12月20日(土) 10:30～12:30
- ところ 米子市ふれあいの里 大会議室
- テーマ 「親子も学生もワクワク♪ほいくの世界♪」

～保育のあれこれを「見て」「聞いて」「触れて」魅力を発見しよう！～



2 エルダー・メンター制度に関する研修会・交流研修会の開催

9月22日、湯梨浜はごろも苑はごろもホールで㈱キャリアレイズ 代表取締役 濱本ひとみ 氏を講師に招きエルダー・メンター制度に関する研修会及び交流研修会を開催しました。

講義では、制度導入の必要性や適切な指導方法、それぞれの立場における役割の違いなどについて分かりやすく説明いただき、参加者にとって、自身の職場での対応の在り方や今後の工夫などについて、改めて考える貴重な機会となったようです。

エルダー・メンター制度に関する研修会及び認証施設の職員間の交流、グループワークは今後も継続予定です。この制度が保育現場における若手保育士等を含む職員全体の人材育成と定着につなげていきます。



3 保育士・保育所支援センターの紹介

保育者の仕事は、子どもの育ちに関する高度な専門知識を備えた専門職であり、子どもを見守りながら育み続けることのできる仕事です。また、子どもの成長の喜びを保護者と分かち合えるなど魅力にあふれた仕事もあります。

鳥取県保育士・保育所支援センターでは、保育者・保育現場の魅力を県民の皆さんに理解していただくとともに、県内の保育人材の確保を目的に、保育士資格をお持ち(取得見込み)の方の就職支援や働きやすい環境づくり等、保育者の職場定着・離職防止に向けた取り組みを行っています。

詳しくはホームページやフェイスブックをご覧ください。

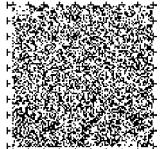


ホームページ



フェイスブック

◆問い合わせ先 鳥取県保育士・保育所支援センター ☎0857-59-6342◆



音声コード Uni-Voice

「福祉の魅力発信フェスタ& 福祉のお仕事ガイダンスとっとり2025秋」開催

高齢化がさらに進行することが予想されるなかで、福祉・介護サービス分野はいま最も人材確保に真剣に取り組んでいかなければならない分野の一つです。福祉・介護サービスの仕事が働きがいのある職業として社会的に認知され、若い世代の方々をはじめ多くの方から魅力ある職業として選択されるように、「福祉のしごとの魅力」や「福祉のしごとの今」を知っていただくためのイベントを開催しました。

当日は同会場のメインアリーナで開催された「ねんりんフェスタ」の来場者や親子連れ、福祉関係者など250人以上の方に参加いただきました。

日 時 令和7年11月9日(日) 9:00~16:00

会 場 鳥取県民体育館 サブアリーナ



介護のおしごと自由研究作品展



最新福祉機器の
展示・体験



保育士ありがとうメッセージ



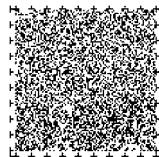
KAiGO PRiDE
ポートレートパネル展示・動画放映

最新の機器を実際に体験したりロボットとの会話を楽しんだりして、参加者のみなさんは多くの発見があったようです。この他、「福祉のお仕事ガイダンス」では福祉の仕事について鳥取県福祉人材センターと鳥取県保育士・保育所支援センターが相談ブースを設け、来場者からの資格取得や就職に関する相談に応じました。

参加者アンケートでは8割以上の方が「福祉の仕事に対するイメージがよくなった」と回答されるなど、福祉業界のイメージアップにつながったと思います。

福祉人材センターでは、社会と未来を支える大切な「福祉のお仕事」を知っていただき、就職を支援するための取り組みを引き続き実施していきます。

◆問い合わせ先 鳥取県福祉人材センター ☎0857-59-6336 ◆



住民の「思い、を起点に、地域をともにつくる～市町村社協先進地視察研修～

本会では、市町村社協による地域づくりを推進するため、先進的な実践から学ぶ視察研修を実施しています。今年度は東広島市社会福祉協議会を訪問し、地域アセスメントの進め方、住民主体の地域福祉活動計画、多機関連携、災害対応、福祉教育など幅広い取組みについてお話を伺いました。

東広島市社協の取組みで印象的だったのは、まず「地域を丁寧に知る」姿勢です。自治会、サロン、地区社協などの活動を把握し、各地域の課題や強みを整理する地域アセスメントを継続的に実施。その過程で住民の声を聞く地域懇談会を開催しそこでの意見を反映して住民主体の地域福祉活動計画を策定していました。計画づくりそのものが地域の関係づくりにつながっている点が印象に残りました。また、専門職の連携強化として、「コアネットワーク会議」を月1回開催しています。保健師、包括支援センター、コミュニティソーシャルワーカー（C-SW）などが集まり、困難事例について助言し合うことで顔の見える関係が育まれています。この会議は、支援者同士が支え合ってきました。

災害時の取り組みについて、平成30年7月豪雨災害に対する、豪雨災害について対



東広島市社協 安芸津支所長
伊藤 勝氏によるご説明の様子

踏まえ、平時から多様な団体と顔の見える関係を築くことを重視している点が印象的でした。日頃のつながりが、災害時に参加者も共感していました。2日目の安芸津支所視察では、中学生に地域のこれからを考えてもらう「将来の安芸津地区を考える取組み」が紹介され、地域の将来を考えることが福祉教育となり、進学後も地元に関われるとする意識を育む人材育成の取り組みであることが伺えました。

参加者からは、「地域共生社会の実現に向けて参考になつた」「地域アセスメントの方法など、具体的な実践の仕方を学びたい」という声が寄せられました。今回の視察は今後の実践につながる大きな学びの機会となりました。

大山町立大山小学校4年生PTAの方から相談を受け、「家族de防災キャンプ」として、「防災福祉教育」と「鳥取県DWAT訓練」を合同で11月1日～2日の2日間の日程で開催しました。大山小学校の4年生と保護者の方たちを中心し、DWATチーム員、大山町職員、鳥取大学工学部の教授や学生、災害福祉支援センター職員が参加・協力しました。会場は避難所にも指定されている大山小学校の体育館です。

●実施内容は主に以下のとおりです。

①アイスブレイク・段ボールタワー対決

②大山町役場講話..防災について
③避難スペースづくり..間仕切りテント・段ボールベッド設営

④鳥取大学..新聞紙ストリップ・ごみ袋ポンチョを作つてみよう!
⑤DWAT訓練..避難所内のマッチピング、アセスメント訓練など

⑥防災福祉教育..防災○×クイズ
⑦防災食づくり..湯煎で作る力レーライス

⑧避難生活体験..体育館で宿泊
⑨町探検..小学校周辺の危険箇所や身を守る行動、避難場所を確認



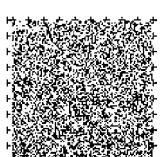
DWAT：避難所のマッピング訓練



段ボールタワー対決

今回の訓練では、被災者の方の気持ちを少しでも理解できるように、DWATも避難生活体験として、体育館に宿泊しました。参加者から「トイレに行くために足音を立てないよう歩く緊張感を体験することができた。体験しないと分からなかつた」と感想をいただきました。DWATとして、被災者の方へ寄り添うことのできる支援をめざし、今後も研修や訓練等を実施していく

鳥取県DWAT・ 大山小学校4年生PTA 「家族de防災キャンプ」



◆問い合わせ先 災害福祉支援センター ☎0857-30-6367◆

日常生活自立支援事業の運営監視 ～地域での自立した生活への支援に向けて～

福祉サービス運営適正化委員会

日常生活に不安を抱えている高齢者や障がい(知的障がい、精神障がい)のある方などは、福祉サービスに関する情報入手や利用方法・手続きがわからない場合があります。そこで、県社協では福祉サービスの適切な利用の援助を行うとともに、金銭管理や常生活自立支援事業」を市町村社協の協力を得て実施しています。

当委員会では、この事業が正に運営されるよう「運営監視小委員会」において、県社協から定期的に事業の実施状況の報告を受け助言等を行うとともに、市町村社協に対し事業実施体制や支援状況、預かり物件の管理状況等について現地調査を実施し、改善すべき事項等講評を県社協に提出しています。



当委員会では、福祉サービスの利用援助が適正に行われ、誰もが地域で安心して自立して暮らしていくよう、引き続き運営監視を行っていきます。

◆問い合わせ先 福祉サービス運営適正化委員会 ☎0857-59-6335 ◆

令和7年度 社会福祉法人 労務管理研修会の御案内 「安心して働ける職場づくり」

～ハラスメント対策の改正ポイントと対策の実例～

カスタマーハラスメント対策など、雇用管理上の必要な措置を講じることが事業主の義務となることについて理解を深め、具体的な対応事例などを通じて、従業員が安心して働く職場づくりの手法を学びます。

日 時 令和8年1月29日(木)
13:30～16:30

定 員 40名(先着順とし、定員になり次第締め切ります)

参加対象 社会福祉法人及び事業所の管理者、人事・労務担当者等

参 加 費 2,000円／人

方 式 オンラインでの開催
(Web会議用ソフトZoom利用)
ブレイクアウトルームによる
意見交換も予定

申込期限 令和8年1月22日(木)

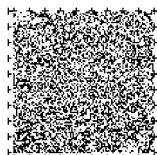
講 師 株式会社キャリアレイズ 代表取締役
濱本 ひとみ 氏

内 容

- カスタマーハラスメント対策の義務化
- 求職者等に対するセクハラ対策の義務化
- カスタマーハラスメントの実例と対策



◆申し込み及び問い合わせ先 福祉振興部 ☎0857-59-6344 ◆





社会福祉法人 鳥取県共同募金会

赤い羽根共同募金

～じぶんのまちを良くするしくみ。～



応援したい団体・事業を選んで、寄付をお願いします

地域の福祉課題解決に向けて具体的なテーマを掲げて取組む団体と、鳥取県共同募金会が協働して募金を呼びかける「つかいみちを選べる募金」を行います。本年度は令和8年1月1日(木)から3月31日(火)までの3か月間、6団体が募金活動を展開します。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

令和7年度 つかいみちを選べる募金助成事業一覧

公益社団法人 とつとり被害者支援センター



事業名：犯罪被害者等支援事業
目標額：100万円

特定非営利活動法人 こども未来ネットワーク



事業名：子どもの笑顔発見プロジェクト
目標額：35万円

とつとり子ども居場所ネットワーク “えんたぐ”



事業名：こども食堂対象文化芸術体験事業
目標額：30万円

鳥取県腎友会



事業名：慢性腎臓病の予防・早期発見の啓発活動と患者支援の推進
目標額：40万円

鳥取県福祉研究学会



事業名：鳥取県福祉研究学会20周年事業
目標額：20万円

一般社団法人 鳥取県障がい者スポーツ協会



事業名：障がい者スポーツ団体等の育成
目標額：179万円

・ありがとうメッセージ・

青少年社会生活支援団体 Amazing!(米子市)

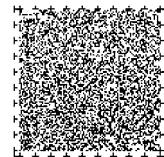
地域の子供たちの活動が赤い羽根と繋がります。
災害発生時に地域のみんなで助け合うことができるようになるためには、普段からの関わり合いがとても大切です。学校の行き帰りや街で遊んでいる子供たちが地域の人と元気に挨拶ができる風景があつてこそ、もしもの事態が起きた時の助け合いに繋がります。子供たちに災害の怖さや、もし災害が起った時にどんな行動をするのか、また普段からどんな準備が必要なのか、都度機会を設けて子供たちに知ってもらう、考えてもらうことが大切だと考えて防災キャンプを開催しました。災害発生時の避難所となる公民館に泊まる貴重な体験ができました。みんなでご飯を作る体験、朝食には非常食も食べました。

共同募金会の助成事業で、子供たちに貴重な経験をしてもらうことができました。

令和7年度赤い羽根パートナーと創る 新たな助成事業“こども防災キャンプ”



◆問い合わせ先 鳥取県共同募金会 ☎0857-59-6350◆



「鳥取県ひとり親家庭等高等教育進学支援資金事業」 寄付金募集のご案内

鳥取県内の経済的に厳しい状況におかれている、ひとり親家庭等の生徒が大学等への進学を希望する際に、「入学準備に必要な費用を支援したい」と県内の篤志家の方からの寄付金を財源に、令和2年度に創設しました。

鳥取県内に在住する高校生または高等専修学校生であって、市町村民税の所得割が非課税世帯の「ひとり親家庭・児童養護施設に措置または里親に委託された生徒」の、大学・短大・専門学校への進学を支援します。

経済的に厳しい状況にある中、成績が優秀な生徒に進学支援金として、1人10万円を寄付します。

過去5年間で64人の生徒を支援してきましたが、昨今の物価高等を考慮するに今後も継続的に該当世帯の支援が必要です。



事業の趣旨に御賛同いただける方は、
1人1口3千円(目安)からの寄付に御協力ください。



寄付の方法など詳細はホームページをご確認ください。
URL <https://www.tottori-wel.or.jp/hukushi/8/>

◆問い合わせ先 福祉振興部 ☎0857-59-6344◆

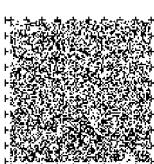


ボラセンの窓から地域共生社会を展望する
～身近な地域資源が輝くために～

令和7年度市町村社協ボランティアコーディネータースキルアップ研修を、11月7日に倉吉福祉センターで開催しました。今年度は社協ボランティアセンター（以下VC）の役割と機能について、VCの専門的なスキルや知識というよりも「社協」としてどのように地域福祉を推進していくのか、普段の業務がVCや地域福祉にどう繋がっていくのかの視点や「つながり方」について学び、研修受講後に日々の事業や社協活動にどう反映させていくか職員同士の意見交換を行うことを目的とし、講師に社会福祉法人阪南市社会福祉協議会事務局次長の猪俣健一氏をお招きしました。

研修では、「抽象のハシゴ」という、自分のなりたい姿と現在していることを具体と抽象で紐づけて考えるキーワードを軸に、阪南市社協の実践事例とそこまでの仕掛けや裏側のエピソードを参考として、最終的には自社協でどのように実践していくかを検討しました。

本研修では、自分の地域で実現したい取り組みやそのプロセスを検討する機会とした為、今後に向けた事業の進捗や活動したいことを共有し、更に深まる研修をしていきたいと考えます。



◆問い合わせ先 福祉振興部 ☎0857-59-6344◆

賛助会員を募集しています



本会では、地域福祉の推進とみんなでつくる福祉社会の実現に向けて、

“県民参画による福祉のまちづくり” “安心して暮らせる仕組みづくり” “福祉を担う人づくり” を中心に地域の様々な機関・団体と連携して、安心して暮らせる地域社会をめざしています。

賛助会員の皆様のご協力をいただき、県内の地域福祉をより一層充実していきたいと考えています。本会の趣旨にご賛同いただき、会員としてご支援、ご協力をくださいますようお願い申しあげます。

会 費 (毎年度) 団 体 一口 : 10,000円
個 人 一口 : 3,000円

【賛助会員になるには】

入会を希望される方は、鳥取県社会福祉協議会ホームページより加入申込書をダウンロードしてください。

必要事項を記入の上、本会まで郵送してください。入会申込書受理後、会費納入のご案内をお送りします。

◆申込書送付先◆ 〒689-0201 鳥取県鳥取市伏野1729-5 鳥取県社会福祉協議会 総務部

◆問い合わせ先 総務部 ☎0857-59-6331◆

御寄付御礼

御寄付を賜り誠にありがとうございました。
御意志に従い活用させていただきます。(順不同)

〔地域福祉振興基金〕への御寄付

(生活困窮者に対する支援など、地域福祉の推進を支援しています。)

- ◆鳥取県大衆音楽協会 理事長 岡部 和子 様
- ◆故齊藤遼子様弁護士 長田 知恵 様



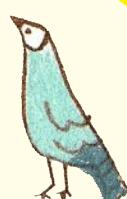
〔交通遺児福祉資金〕への御寄付

(県内の交通遺児へ激励金を支給します。)

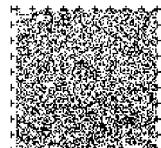
- ◆学校法人聖心幼稚園 様

◆問い合わせ先 総務部 ☎0857-59-6331◆

♪ パソコン修理～介護ソフト～ 伝送設定～
OA機器 リース メンテナンス
有限会社 松本事務機



鳥取市千代水2丁目117番地 ☎0857-31-6661
<http://values.main.jp> FAX 0857-31-6662





私たちには人にやさしい快適環境を創造し、
未来をデザインするヒューマン企業です。

介護・自立支援・栄養管理・勤怠・給与・会計・セキュリティシステムから
介護用品まで介護現場をトータルでサポート致します。

お客様の環境と問題点をお聞きし、事務の効率化、介護現場の効率化と共に
考え最適なシステムをご紹介いたします。

■当社の取り扱い介護・自立支援・栄養管理システムメーカー

ND ソフトウエア一株式会社 (ほのぼの NEXT)

株式会社 ワイズマン

株式会社 東経システム (福祉見聞録)

株式会社 日立システムズ (福祉の森)

株式会社 コーエイコンピュータシステム (EIBUN)

株式会社 モリックスジャパン

本社 〒680-0912 鳥取県鳥取市商栄町 203-6
TEL 0857-23-3641 FAX 0857-22-3329

倉吉店 〒682-0812 鳥取県倉吉市幸町 529
ユーミーレジデンス 1-3 号
TEL 0858-24-5451 FAX 0858-24-5452

モリックスジャパン



日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和7年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラから
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料 (1名あたり)

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

保険金の種類	プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン
	死亡保険金	1,040万円		
ケガの補償	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
の 賠 償 責 任	手術 保険金	65,000円		
	外来の手術	32,500円		
	通院保険金日額	4,000円		
	地震・噴火・津波による死傷	X	O	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)		
	年間保険料	350円	500円	

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も左記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 中途でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

送迎サービス補償

福祉サービス総合補償

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

(傷害保険)

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

(引受幹事保険会社)

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03(3349)5137

受付時間: 平日の 9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店

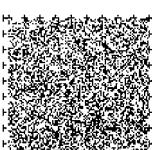
株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03(3581)4667

受付時間: 平日の 9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ24-10057より抜粋)



鳥取県福祉研究学会のご案内

① 日 時	令和8年2月21日(土) 10:20~15:30 (予定)
② 会 場	鳥取看護大学・鳥取短期大学 (倉吉市福庭854 TEL 0858-27-2800)
③ 参加対象	鳥取県内に所属・在住する福祉に関する業務に従事している方 福祉に関する調査研究している方 その他福祉に関心を持つ団体・個人
④ 内 容	<p>①10:20~ 研究発表 (口述発表及びポスター発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 口述発表 各分科会において、分野ごとに口述発表 【研究分野】高齢者福祉（施設系・在宅系）、障がい児・者福祉、児童福祉、地域福祉、その他社会福祉領域 <p>● ポスター発表 ポスター掲示にて発表 ※それぞれの発表要旨・時間については、令和8年2月10日以降に、鳥取県社会福祉協議会ホームページに掲載します。 (URL : https://www.tottori-wel.or.jp/common/gakkai/)</p>
⑤ 参加申込	<p>②13:20~ 講演</p> <p>テーマ 「心のケアが必要な思春期・青年期の若者支援」</p> <p>講 師 特定非営利活動法人東京フレンズ 理事長 西隈 亜紀 氏</p> <p>③14:50~ 授賞式・閉会</p> <p>申込方法について、詳しくは事務局までお問い合わせください。 申込期限 令和8年2月11日(水)</p>
⑥ 参 加 費	<p>①一般参加者・発表参加者 1,000円 ②学生・障がい当事者 500円</p>
⑦ お 問 い 合 わせ 先	鳥取県福祉研究学会事務局 (鳥取県社会福祉協議会 福祉人材部) TEL 0857-59-6336 メール gakkai@tottori-wel.or.jp

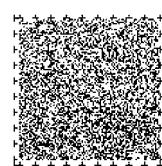
福祉関係者の皆様をはじめ、多くの方々の参加を心よりお待ちしています。

感染症の拡大や自然災害等のやむを得ない事態が発生した場合、本研究発表会を中止・延期、または開催方法を変更することがあります。中止等の場合は、県社協ホームページでお知らせしますので、参加前にご確認ください。

◆問い合わせ先 福祉人材部 ☎0857-59-6336◆



二次元コード▶



音声コード Uni-Voice